

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「図書館を使いこなそう」 教材名「図書館を使いこなそう」

2 単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(3)オ）

図書館の検索や分類を使い、調べる目的に合う本を選ぶ学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①図書館の検索や分類を使い、調べる目的に合う本を選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

図書館の検索や分類を使い、調べる目的に合う本を選ぶ。この教材では、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

学校で使える分類表示や検索の手順を実物で示す。読む目的と合うかを中身で確認し、本の厚さや読んだ冊数を評価の基準にしない。想定する難しさは、棚の表示を見ずに探し続ける、本を選んでも内容を確認できない。評価では、日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いているかを、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。関心のある問いを決め、図書館の表示や利用できる検索から本を探す。目次・索引・発行情報を確認し、必要な情報に当たるか比べる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(3)オ）

(2) 学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「同じ言葉で探しても、目的に合う資料と合わない資料はどう見分けますか」 【めあて】図書館の検索や分類を使い、調べる目的に合う本を選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ仲間の本が近くにあった。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「同じ言葉で探しても、目的に合う資料と合わない資料はどう見分けますか」 関心のある問いを決め、図書館の表示や利用できる検索から本を探す。目次・索引・発行情報を確認し、必要な情報に当たるか比べる。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ仲間の本が近くにあった。 ・題名だけでなく中も確かめて選びたい。	学校で使える分類表示や検索の手順を実物で示す。読む目的と合うかを中身で確認し、本の厚さや読んだ冊数を評価の基準にしない。 想定する難しさ：棚の表示を見ずに探し続ける、本を選んでも内容を確認めない。 評価では、日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いているかを、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・題名だけでなく中も確かめて選びたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ言葉で探しても、目的に合う資料と合わない資料はどう見分けますか」。中央は、探す目的、手掛かりにした表示、選んだ本とその理由の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

